

女子教育基金 (Girl Child Education Fund)

概要

女子教育基金 (GCEF) は、開発途上国の看護師の遺児である 18 歳以下の女子が初等教育・中等教育課程を継続し、修了することを支援するものとして、2005 年に発足した。国際看護師協会 (ICN) とフローレンス・ナイチンゲール国際基金 (FNIF) がプログラムを運営する。基金への寄付は、学費・制服・教科書等の費用と心理社会的支援に充当される。

2005 年の発足以降、430 人以上の女子が GCEF のプログラムに参加してきた。現在、ケニア、エスワティニ、ウガンダ、ザンビアにおいてプログラムが展開されている。

GCEF プログラムの女子は、GCEF コーディネーターとのつながりを持ち、教育の継続、及び日常的な問題への対応の支援を受け、中等教育修了後、高等教育への進学や就職することを目指す。

GCEF プログラムでは、1 人の女子の 1 年間の初等教育・中等教育にかかる費用は約 1,500 米ドルである。

発足経緯

看護師は長期にわたり子どもの問題にたずさわってきている。2000 年、FNIF は 10 歳から 14 歳の女子に影響を及ぼす保健政策に取り組む「女児プロジェクト (Girl Child Project)」を発足した。

このプロジェクトおよび HIV/AIDS の取り組みの中で、ICN と FNIF は孤児の問題、特に看護師の孤児に焦点をあてている。

我々は毎日何人もの看護師が命を失っていることを知っている。また、親をなくした子どもの多くが親戚にあずけられていることも知っている。家族は大きな犠牲を払って地域の孤児の 90% を引き受けている。しかし、援助がなければ、この子どもたちの多くは学校に行くことができない。

こうして、アフリカの大きなニーズと数多くの孤児への率先した取り組みを行うべく「女子教育基金」が設立された。2005 年 5 月の第 23 回 ICN 4 年毎大会において発足するや、世界中の看護協会から反響があった。

女子への教育の重要性

女子が教育を受けることは以下をもたらす。

- 家族計画の向上、乳幼児死亡率の低下、妊産婦死亡率の低下、HIV/AIDS への感染率の低下につながり、人々の健康に貢献する。
- より高額な給与が得られる職につく機会を得られ、家族の収入の増加、そして自身の子どもが教育を受ける機会につながる。

寄付はオンラインにて受け付けている。

● ICN ウェブサイト：女子教育基金ページ <https://www.icn.ch/what-we-do/projects/girl-child-education-fundtm-gcef>